

るのを切り抜いておいて話しても可い。

新聞に、子供に聞かせていゝ話がよく載つてゐる。切抜

観 察

第十三週

暖房設備 年長組第十二週参照

第十四週

りんご

子どもにまつては果物ミ「リンゴ」はシノニムみたいなものである。果物の観察はむづかしいと言ふのは食べられる故である。がさうかと言つて繪にしてしまふと観察の本質性は少くとも半減されると思ふ。りんごならば、殊に魅力の強いりんごならば、果物店のりんごを作つたり、寫生したりした後、少しづつ子ども達とわけてもよいものであらう。さうすれば中迄観察させる事も出来る。

第十五週

暮の町

いて用意しておく事は保母としての不斷の心がけの一つであると思ふ。

誘導保育で紙箱の家が出来、それを並べて町が出来る。

ちやうど年の暮だ。その町をそのまゝ暮の装飾しても面白い。さうしない迄も暮の町はあはたゞしいが何がなし楽しいのを、銘々の通る、又は住む町を、みんな飾がしてあつたかみて來させて發表させるのも面白い事である。又幼稚園の近くの町を一しよにみに行つてもよい。

冬至

時間の経過に子ども達は割合に無關心である、さいふのは子ども達の生活が具體的である爲であらう。しかしこのごろは一年中で一番晝間が短くて夜が長い。即ち早く暗くなつて、朝明るくなるのがおそいさいふ事を話して冬至の意味を知らせる事はいゝと思ふ。これはさう観察させるかさいふより氣候とか天體とかは時間さかに關心を持たせる

第一歩の話である。つけ加へて冬至の日の家庭に於ける行

事も話さう。

手 技

第十三週

自由畫 羽子板 二回

ボール紙製羽子板、或は普通の羽子板に、幼児に自由に模様をかゝせる。

鈿仕事 羽子板 一回

色模造紙を數種用意して、各兒に羽子板の形、その模様をかゝせ、切りぬきてはる。

ぬりゑ モヨウ 一回

製作 紙箱の家

誘導保育案による箱の家製作

各兒の家庭よりボールの空箱をもつてきてもらふ、一人二人を持參せるものより家をつくりはじめる。

始めに先づ何店をつくるかを決めさせる。看板、店の棚なきつくる。次に商品をつくる。空箱の種類は何でもよ

いのであるがあまり淺いものは立てる事が出来ないのので、下駄の箱位が最も適當なものである。

第十四週

自由畫 新年用繪ハガキ、羽子板 四回

畫用紙をハガキ大の大きさに切り一人の幼児に數枚つゝの割にかゝせる。新年のものさいふ注文ではあるが幼児には新年の感の割合に強くないので結局自分の好きなものをかく事になるのである。かけたものはお友達や親類の人にあげるやうに各幼児の家庭にもつてかへさせる。

製作 箱の家つゞき

順次箱をもつて來た幼児から作りはじめる。作つてゐるものはつゞきをつくらせる。

第十五週

製作 箱の家